



● 検 査 案 内 ●



札幌病理検査センター

## I 検査のご依頼

### 検査依頼書

1 細胞診検査  
依頼書兼報告書

2 病理組織検査  
依頼書兼報告書

◎検査の依頼書は下記の事項を必ずご記入下さい。

- ①病医院名、科名、外来、入院、担当医名、電話番号。
- ②患者名(フリガナ)、性別、生年月日。
- ③検査材料、部位、採取法、検体採取年月日、時刻、固定までの時間(とくに細胞診では、検体の時間経過とともに変性進行し判定に影響をあたえます)
- ④臨床経過、検診はその旨、最終月経、治療法、喫煙歴、職歴、既往歴、感染症の有無

### 検体ラベル

検体ラベルは、病医院名、患者名、採取日、材料名、検査項目等をご記入下さい。

### 検体保存法、保存可能時間、検体容器

◎表1、2を参照して下さい。

### 病理組織検査の固定法と取扱い法及び提出方法の留意点

- ①検体は、採取後できるだけ速やかに、固定して下さい。
- ②固定液は、10%ホルマリン(必要に応じて20%)水溶液を使用し、組織の浸透を良くするため固定液の量は組織量の約10~20倍以上として下さい。
- ③手術材料は所定の方法により切り開く(表2-図1、図2参照)固定液が十分に浸透する様に固定して下さい。



④検体は乾燥防ぎ、冷保存、圧迫、変形をできるだけ避けて下さい。

※食道、胃、大腸は切開後、粘膜面を上にし、コルク板や薄い板に広げて固定して下さい。(表2-図1参照)

※子宮は、前面より「Y」字型に剖面を入れてから固定して下さい。(表2-図2参照)

※肺は、剖面にガーゼを挟み表面にもガーゼを掛けて固定して下さい。

※リンパ節は、切除時に部位番号あるいは部位名を明記し別々の広口ビンに入れて、固定して下さい。

### 細胞診検査の前処理、固定法と取扱い法及び提出方法の留意点

(1) 婦人料材料(膣部、頸部、体部擦過及び吸引など)は、スライドガラスに塗抹後直ちに(3~4秒以内)湿固定(95%エタノール)をして下さい。

○必要スライド枚数、湿固定(パパニコロー染色用)1枚 ※乾燥厳禁

(2) 喀痰、乳房分泌物等、粘液性のある材料は、小豆大~大豆大を、スライドガラスに乗せ、※スリ合わせ法で直ちに湿固定(95%エタノール)

○必要スライド枚数、湿固定(パパニコロー染色用)2枚

○採取後、冷保存し、遅くとも24時間以内に塗抹して下さい。

※痰の採取は、早朝痰を「□」をすぎ「つば」の混入をできるだけ避けて下さい。

※P5参照

(3) 蓄痰は各容器に記載してありますので、その要領でお願い致します。

※痰の採取は、早朝痰を「□」をすぎ「つば」の混入をできるだけ避けて下さい。

※P5参照

(4) 気管支擦過物、塗抹後直ちに固定

○必要スライド枚数、湿固定(パパニコロー、特殊染色用)3枚

(5) 気管支洗浄液、要領は下記の(6)を参照して下さい。

○必要スライド枚数、湿固定(パパニコロー、特殊染色用)3枚

乾燥固定(ギームザ染色用)1枚

(6) 体腔液(腹水、胸水、心嚢液)胆汁、尿、髄液等液状の材料は、採取後、速やかに1,500回転、5分間遠心沈渣を、スライドガラスに塗抹後直ちに、湿固定(95%エタノール)・乾燥固定をして下さい。

○検体採取量、10m l 以上

○必要スライド枚数、**湿固定(パパニコロー、特殊染色用) 3枚**

**乾燥固定(ギームザ染色用) 1枚**

○塗抹まで時間がかかる場合は**冷保存**して下さい。(必要に応じ抗凝固剤を加えて下さい)

○採取後、**冷保存**し遅くとも**24時間以内**に塗抹して下さい。

※髄液は採集後直ちに塗抹、固定して下さい。

(7) 穿刺吸引材料(乳腺、甲状腺、前立腺、肺、リンパ節、皮下腫瘍、間接液等)は、塗抹後直ちに、**湿固定(95%エタノール)・乾燥固定**して下さい。

○吸引量が少ない場合、塗抹後に針、注射筒を生食塩水で洗浄し、洗浄液を、1,500回転、5分間遠心沈渣を塗抹固定して下さい。(塗抹は、前記の(6)を参照して下さい)

○必要スライド枚数、**湿固定(パパニコロー、特殊染色用) 3枚**

**乾燥固定(ギームザ染色用) 1枚**

(8) 捺印標本(腫瘍組織、リンパ節など)

生検材料をピンセットなどで摘み、表面又は断面をスライドグラスに押し付けて塗抹する。軟らかく細胞成分に富む組織は軽く、硬く細胞成分の少ない組織は強く捺印するように心がけて下さい。

○必要スライド枚数、**湿固定(パパニコロー、特殊染色用) 3枚**

**乾燥固定(ギームザ染色用) 1枚**

(9) 圧挫標本(脳組織、腫瘍組織など)

組織小塊を2枚スライドグラスに摘み(固いものや、弾力性のあるものは、指腹で押し付け、伸展した時点で)スライドグラスの一方をうかす気持で、横に引きはなす、厚く塗抹された方を**湿固定**、薄い方を**乾燥固定**して下さい。

○必要スライド枚数、**湿固定(パパニコロー、特殊染色用) 3枚**

**乾燥固定(ギームザ染色用) 1枚**

※(6)(7)の材料は湿固定の際、スライドグラスから細胞が剥離しやすいためコーティング固定を15分以上してから湿固定が望ましい。又、スライドグラスはコーティング(ポリレーリジン)されたスライドグラスの使用が望ましい。

※コーティング、スライドグラスは、細胞を良く固着する反面、剥離した細胞を引き寄せ「Contamination」を起こすこともありますので固定液の使い分けなど十分注意して下さい。

※湿固定の場合、細胞の剥離を恐れるあまりプレパラートをゆっくり固定液に入れると塗抹面に固定むらが生じ、所見の不ぞろいが起こりやすいので注意して下さい。

- 湿固定：塗抹後、95%エタノール固定
- コーティング固定：液状検体の塗抹後コーティングすることにより細胞の剥離を防ぎます。その反面均一にコーティングしなければムラができ乾燥の原因になります。[メルコフィックス(噴霧式)ラピッドスプレー(噴霧式)ラピッドフィックス(滴下式)]
- 乾燥固定：塗抹後、扇風機、ドライヤー冷風にて急速乾燥する(後、100%メタノール固定が望ましい)
- 蓄痰法：専用固定容器(YM式、スプートル、ポストサンプー)喀痰を長期間保存可能で集団検診など多量検体処理が容易である。
- すり合わせ法：喀痰や吸引物(粘度のあるもの)、ときには液状検体の沈渣(粘度のあるもの)にも用いられる。喀痰はスライドガラス上に小豆大～大豆大の検体を置き別の一枚のスライドガラスと重ねて、軽く押しながら反対方向に引くと、均等な厚さの標本が得られる。
- 遠心塗抹法：遠心器で遠心沈渣を塗抹する方法。(血液式塗抹)
- 集細胞法：細胞の少ない検体や液状の検体に用いられる。(オートスミア、サイトスピン等)機械による塗抹方法。

## II 検体の受領と搬送

### ○検体の受領

貴院の集配は、毎日、\_\_\_\_\_ 曜日 \_\_\_\_\_ 時頃、  
 受領場所 \_\_\_\_\_ へお伺いいたします。  
 貴院担当者：

### ○検体の搬送

お預かりしました検体は、  
 (1) \_\_\_\_\_ には、\_\_\_\_\_ 時頃(搬送時間： \_\_\_\_\_ )  
 (2) 札幌病理検査センターには、\_\_\_\_\_ 時頃(搬送時間： \_\_\_\_\_ )  
 \_\_\_\_\_ 搬入されます。

○地域によっては直接宅配か、間接、他検査センターによる搬送を行っています。

## III 検査結果の所要日数

検体をお預かりした翌日を起算日とし検査結果を先生方のお手元にお届けする日数です。  
 ※表2参照して下さい。

## IV 検査結果のご報告

検査結果は当センター所定の報告書にてお届け致します。至急を要する結果は、電話、FAX、にてご報告致します。

## V 検体の保管

検査終了後の、検体(組織残、パラフィンブロック、プレパラート)は年度別に整理され、細胞診プレパラートは異常症例、問題例(指導医ダブルチェック)は[5年]、その他[2年]。組織診では、組織残[5年]、プレパラート[2年]、パラフィンブロックは[10年]させていただきます。

尚、組織残など腐敗、変性の著しい材料は、検査終了後速やかに処分させていただきますのでご了承ください。

## VI 料金のご請求とお支払い

請求書は1ヶ月まとめてお届け致します。お支払い方法は契約にしたがってお願い致します。

## VII 検査についてのお問い合わせ

検査内容のお問い合わせ、ご意見、ご指摘については営業担当者までお問い合わせください。

### 診断法

#### 組織診

臨床・病理・癌取扱い規約を活用致します。

#### 細胞診

- 子宮腔・頸部・膣断端・膣壁

クラス分類とベセスダシステムの併記で判定致します。

- 子宮体部・外陰部
- その他

クラス分類と「陽性」・「疑陽性」・「陰性」の併記で判定致します。

- 集団検診(喀痰)

集団検診における喀痰細胞診の判定基準に準じます。

(日本は肺癌学会、肺癌細胞診判定基準委員会)

## 細胞診各種検体の前処理法・固定法及び取扱い法 一覧

表1

検査材料		採取時の注意事項(保存条件、提出条件)	固定法	染色法
婦人科材料(膣部頸管、体部擦過吸引など)		○塗抹後ただちに固定 ○必要スライド枚数(1枚) ※乾燥厳禁	湿固定(95%エタノール)	パパニコロー染色
呼吸器材料	喀痰	○採取量、拇指頭大以上 ○採取後、冷保存し24時間以内に塗抹(スリ合わせ法) ○必要スライド枚数(湿固定2枚) ○塗抹まで時間がかかる場合は冷保存	湿固定(95%エタノール) コーティング固定(噴霧、滴下式)	パパニコロー染色
	気管支擦過物	○塗抹後ただちに固定 ○必要スライド枚数(湿固定3枚、乾燥固定1枚)		
	気管支洗浄液	○1,500rpm、5分間遠沈後、沈渣を塗抹、固定 ○必要スライド枚数(湿固定3枚、乾燥固定1枚) ○塗抹まで時間がかかる場合は冷保存	湿固定(95%エタノール) コーティング固定(噴霧、滴下式)乾燥固定(ドライヤー冷風にて急速乾燥後100%メタノール固定が望ましい)	パパニコロー染色 ゲームザ染色
	蓄痰法	○早朝痰を3日間連続で採取(同一容器) ○冷保存	湿固定(専用容器)	パパニコロー染色
液状検体 (腹水、胸水、心嚢液、胆汁、尿、髄液など)		○採取量、20ml以上 ○遠心塗抹(1,500rpm、5分間遠沈後、沈渣を塗抹、固定) ○集細胞法(オートスメア、サイトスピンなど遠心塗抹機器を使用後、固定) ○コーティング固定を15分以上固定後、湿固定が望ましい。 ○必要スライド枚数(湿固定3枚、乾燥固定1枚) ○塗抹まで時間がかかる場合は冷保存 ※必要に応じ抗凝固剤を加える。	湿固定(95%エタノール)コーティング固定(噴霧、滴下式)乾燥固定(ドライヤー冷風にて急速乾燥後100%メタノール固定が望ましい)	パパニコロー染色 アルシアン青染色 ゲームザ染色
穿刺吸引材料 (乳腺甲状腺前立腺肺、リンパ節、皮下腫瘍関節など)		○塗抹後ただちに固定 ※吸引量が少ない場合、塗抹後に針、注射筒を生理食塩水にて洗浄し、その洗浄液を1,500rpm、5分間遠沈後沈渣を塗抹、固定(コーティング固定を15分以上固定後、湿固定が望ましい。) ○必要スライド枚数(湿固定3枚、乾燥固定1枚)	湿固定(95%エタノール) コーティング固定(噴霧、滴下式)乾燥固定(ドライヤー冷風にて急速乾燥後100%メタノール固定が望ましい)	パパニコロー染色 アルシアン青染色 ゲームザ染色
捺印標本 (腫瘍、リンパ節など)		○塗抹後ただちに固定 ○必要スライド枚数(湿固定3枚、乾燥固定1枚)	湿固定(95%エタノール) コーティング固定(噴霧、滴下式)乾燥固定(ドライヤー冷風にて急速乾燥後100%メタノール固定が望ましい)	パパニコロー染色 アルシアン青染色 ゲームザ染色
圧挫標本 (脳組織腫瘍組織など)		○2枚のスライドの間にはさみ圧挫後ただちに固定 ○必要スライド枚数(湿固定3枚、乾燥固定1枚)	湿固定(95%エタノール) コーティング固定(噴霧、滴下式)乾燥固定(ドライヤー冷風にて急速乾燥後100%メタノール固定が望ましい)	パパニコロー染色 アルシアン青染色 ゲームザ染色

検査項目(病理組織検査・細胞診検査) 検査材料、容器、保存、保存可能時間、検査結果所要日数、前処理法(病理組織)一覧

表2

区分	検査項目	検査材料	容器	保存	時間	所要日数	備考
病理組織検査	組織顕微鏡検査	10~20%ホルマリン	② ④ ⑦	室温	1ヶ月	7~14	●病理組織顕微鏡検査において、1臓器から多数のブロック、標本等を作製、鏡検した場合であっても1臓器の検査として算定するものであること。 注：3臓器を限度とする。 ※検査項目外
	※ 組織標本診断のみ	染色済標本				5~7	
	※ 組織標本作製のみ	ホルマリン固定材料 パラフィンブロック		室温		5~7	
	※ 顕微鏡写真	染色済標本				10~12	
	※ HE染色標本作製	ホルマリン固定材料 パラフィンブロック		室温		5~7	
	※ 未染標本作製	ホルマリン固定材料 パラフィンブロック		室温		5~7	
細胞診検査	細胞診(婦人科材料)	膣部、頸部、体部擦過及び吸引など	③	室温	1週間	4~12	図1 食道、胃、大腸(粘膜面を上)
	細胞診(その他)(呼吸器材料)	喀痰・気管支擦過 気管支洗浄液	③	室温	1週間	4~12	
	細胞診(その他)(蓄痰法)	3日間早朝蓄痰	①	室温	容器に記載	4~12	図2 子宮(前面より)
	細胞診(その他)(液状検体)	腹水、胸水、心嚢液、胆汁、尿、髄液など	③ ⑤	室温	1週間	4~12	
	細胞診(その他)(穿刺吸引材料)	乳腺、甲状腺、前立腺、肺、リンパ節、関節液	⑤	室温	1週間	4~12	
	細胞診(その他)(捺印標本)	腫瘍組織・リンパ節など	③	室温	1週間	4~12	
	細胞診(その他)(圧挫標本)	脳組織・脳腫瘍組織など	③	室温	1週間	4~12	
	※ 細胞診(染色のみ)				1週間	4~9	
	※ 顕微鏡写真	染色済標本				10~12	

容器一覧





## ● 参考文献 ●

- I. 「病理技術マニュアル」病理解剖とその技術：病理学会編、医歯薬出版KK
- II. 同上、3、病理組織標本作製技術(上) 切出しから薄切りまで 医歯薬出版KK
- III. 同上、3、病理組織標本作製技術(下) 染色法： 医歯薬出版KK
- IV. 同上、4、病理組織化学とその技術： 医歯薬出版KK
- V. 同上、6、細胞診とその技術： 医歯薬出版KK
- VI. 臨床・病理、癌取扱い規約、金原出版KK
- VII. 細胞診断学 木村禧代二、田嶋基男、柴田偉雄 名古屋大学出版会
- VIII. 新婦人科細胞診断学 天神美夫、屋代定夫、西谷巖 医学書院
- IX. ベセスダシステム 2001アトラス D. Solomon・R. nayar編 平井康夫監訳  
シュプリンガー・ジャパン株式会社



## 札幌病理検査センター

〒060-0042 札幌市中央区大通西14丁目 北日本南大通ビル4F  
TEL(011)261-2713 FAX(011)261-2714